

今、国産大豆がアツい！北陸大豆サロン 開催概要

令和4年8月31日 開催

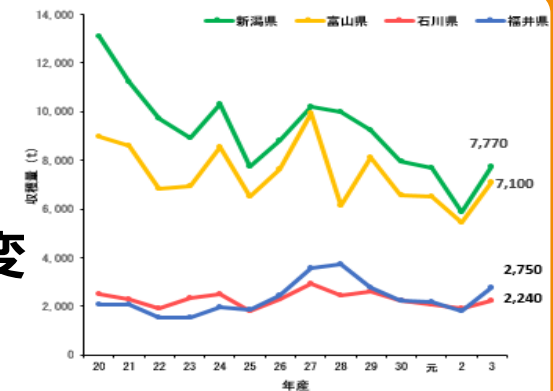
北陸農政局
生産部 生産振興課

北陸大豆サロンの概要① <背景>

- 国際的な農産物価格高騰により、**輸入大豆の価格が高騰**。輸入依存の高い大豆の増産について、早急な対応が必要。
- 国産大豆については、価格、供給量、品質の安定が前提になるが、消費者ニーズへの対応や高付加価値に向け、**需要が堅調**。
- 本サロンでは、**実需サイド/生産サイド**のそれぞれの立場から、リアルな実態の情報発信を行い、今後の需要に応じた大豆の安定生産を進めるきっかけとする。

【北陸の大豆生産の現状】

- 全国の大豆作付面積に占める**北陸地域の割合は8%**。
- 大豆の生産は、気象条件等の影響により、年次変動が大きくなるが、令和3年産は、4県とも、前年産の収穫量を上回っている。



図：大豆の収穫量の推移（北陸）

北陸大豆サロンの概要② <実需サイドの声>

- 国産大豆の使用実績がある実需者(6社)から、今後、**国産大豆を調達するための課題**等について、情報提供いただきました。

【ポイント（用途別は下記に記載）】

- ① **実需者との長期的な結びつきのため、北陸では年々の収量・品質のバラつきを抑えての安定供給が重要。**
- ② **「安全面」や「付加価値」の面として、地産地消としての地元産という顔の見える点が必要。**

品目（会社）	現状	今後の課題等
豆腐（(株)金沢豆富）	<ul style="list-style-type: none"> ・石川県産大豆を使用し、付加価値のある商品を製造。 	<ul style="list-style-type: none"> ・供給・品質・価格の安定 ・県内に低温倉庫がなく、輸送が非効率。低温倉庫の整備が必要ではないか。
納豆（(株)金城納豆食品）	<ul style="list-style-type: none"> ・小粒や極小粒が必要。 ・県内で栽培されていた小粒が、近年栽培中止になった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小粒・極小粒の安定供給 ・価格とロット（数量）の一致
醤油・味噌等※ （トナミ醤油(株)、新潟県醤油協業組合、福井県醤油味噌工業協同組合、(株)米五、マルコメ(株)）	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者の安心のため、国産へ切替えの動き。 ・商品により、求める品種、品質、価格等が異なる。 ・加工度合いが高いことから、価格重視(低価格)で大豆を選択する場合もある。 ・輸入大豆は、コンテナの到着が遅れ、調達が不安定になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・長期・安定的なロットの確保 ・味噌用に適した品種が北陸で開発されるなら使ってみたい。 ・できるだけ安いもの(規格外)を優先して確保したいという要望あり。 ・輸入大豆と国産大豆の価格差が課題。

※大豆ミートなど加工品を含む。

北陸大豆サロンの概要③ <生産サイドの声>

- 管内の優良な大豆生産者（2名）から、大豆の安定生産の取組について、情報提供いただきました。またJA全農（新潟、富山）から、実需者との大豆取引の現状及び課題等について情報提供いただきました。

【生産面（**栄北部株式会社**（新潟県）、**寺崎俊弘氏**（富山県））】

- ・ 安定生産には**排水対策**や**雑草・病害虫防除**等の基本技術の徹底が必要。
- ・ 高畝狭畦密植栽培を導入することで、中耕培土をする必要がなく省力化が図れ、他の作業ができる。
- ・ **高齢化**（担い手の不足）、**単収の減少**が課題。

【流通面（**JA全農にいがた**、**JA全農とやま**）】

- ・ 大豆の用途別割合は、**豆腐**が最も多い。
- ・ **機械・設備の老朽化**等の課題はあるが、主食用米からの転作等の動きにより、出荷契約面積は前年度より増加。

北陸大豆サロンの概要④ <質疑応答>

	質問	回答
1	<p>(農政局)</p> <p>・石川県で栽培されていた小粒品種「<u>こすず</u>」が栽培中止になったとのことだが、何故か。</p>	<p>((株)金城納豆食品)</p> <p>・<u>栽培中止の理由は不明(会議後に確認したところ、古い品種で種子を入手できなくなったことによる)</u>。また、JAから別品種「<u>すずかおり</u>」を提案されたが<u>収穫量が少なく使えなかった</u>。最低限の数量がなければ、商品として販売できない。</p> <p>(補足) 会議後に中日本農研に確認した内容は以下。</p> <ul style="list-style-type: none">・北陸地域で栽培できる小粒品種としては、東北農研の「<u>すずほのか</u>」、長野県野菜花卉試験場の「<u>すずこまち</u>」が考えられる。・「<u>すずかおり</u>」は成熟期が早すぎるため減収になったこと、また、コンバインに取り付けてある通常の受け網の目では、収穫物に莢が混じりやすいので後の作業が煩雑になることも一因である。 <p><参考：令和3年度大豆の検査結果より> 近隣で小粒の生産がある県は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none">・長野県(すずろまん) 検査総数量：32トン・三重県(すずおとめ) 検査総数量：47トン
2	<p>(農業法人)</p> <p>・新潟県醤油協業組合が使用している<u>規格外大豆</u>について教えてほしい。</p>	<p>(新潟県醤油協業組合)</p> <p>・<u>商社に規格外を依頼し、大体規格外品のものを使用している</u>。</p>

北陸大豆サロンの概要⑤ <質疑応答>

	質問	回答
3	<p>(本省)</p> <p>・石川県で、<u>大豆の低温倉庫が不足している</u>という課題が挙げられたが、他地域の状況は。</p>	<p>(JA全農にいがた)</p> <p>・<u>新潟県でも倉庫が不足している</u>。<u>大豆は米のように高く積んで保管できない</u>ため、スペースを多く取ると考える。また、大豆は規格が多く、規格ごとに保管する必要があるため、スペースをとる。</p> <p>(JA全農とやま)</p> <p>・状況は同じ。<u>県外の倉庫を探し対応しているが、どんどん遠い場所の倉庫になってしまう</u>。</p>
4	<p>(味噌・醤油メーカー)</p> <p>・北陸地域では<u>有機大豆</u>はどのような生産をしているのか。</p>	<p>(農政局)</p> <p>・各県の一部地域で栽培。農林水産省HPに<u>有機JAS認証事業者</u> (HP公表に同意した事業者のみ) の一覧を掲載しているため、参考にさせていただきたい。</p>

【今後の対応】

次回の大豆サロン(令和5年1~2月予定)において

- ・ **実需面：大豆実需者等からのヒアリング
（国産大豆のニーズ）**
- ・ **生産面：生産拡大に向けた
支援策や技術情報の提供
等を行う予定。**